

くりまっこ

元気いっぱい 笑顔あふれる 栗真の子



4年生が福祉に係る学習を行いました！

1月26日(金)に、津市内で盲導犬と生活してみえる内田さんに、お話を聞かせていただきました。内田さんは、平成12年から三重県視覚障害者協会の役員として、平成19年から会長として、視覚障害者の福祉向上や、社会参加など、課題解決に向けた活動を進めてこられました。具体的には、画面の情報を音声で読み上げてくれる視覚障害者向けの音声パソコンの技術指導に取り組んでこられたり、ふだん一緒に行動している盲導犬を連れて小中学校などで講演を行うことを通して盲導犬の理解促進などに努めてきたりしてきました。つい最近の令和5年11月には、長年にわたる功績が認められ、「旭日双光章」を受章されています。

今日の授業では、まず、目の不自由な方が持っている白杖について教えていただきました。「この白い杖を持っている方がいたら、目が不自由な方なんだよ。」と分かるように、世界基準で決まっているそうです。白杖を使って上手に歩いているでも、万能ではないため、危ないところがあれば、声をかけてほしいそうです。特に背丈以上の高さは分かりづらいそうです。

内田さんからは、目が不自由であるということは、目から入ってくる情報が全く分からないため、信号が青なのか赤なのか、店が何時に開くのかなど、目で見て判断できないことが困るという話がありました。でも、技術が進歩してきたため、生活しやすくなってきた面もあるとも話していました。例えば、昔は点字で読んでいた文字も、今はパソコンが音声で読んでくれる。スマートフォンのアプリで写真を撮れば、そこに書かれている文字を読み上げてくれるなどです。また、目が不自由だからこそ、人とのコミュニケーションを大切にしていると話していました。特に、自分自身に対して、周りからは言いづらいことがたくさんあると思うので、何でも自分から自分自身のことを伝えるようにしているそうです。そして、目が不自由であっても、人にはなるべく頼まず、何でも自分自身で行動するようにしているそうです。そのような内田さんの生き様は、私たちも見習わなければならないなと思いました。

3代目になる盲導犬デュークとともに来ていただいた内田さんには、他にもたくさんのお話を聞かせていただきました。子どもたちは、内田さんの思いがこもったお話を聞き、伝えられたことをしっかりと受け止めることができましたと思います。



◇◇◇ 創立150周年に向けて ～その7～ ◇◇◇

令和4年になると、学校プールの老朽化により、民間プールを活用した水泳授業が開始されることとなります。そして、令和5年になると、11月には、児童の教室や職員室の蛍光灯をLEDに切り替える工事が行われ、今までとは比較にならないほど、明るい教室で学習ができるようになりました。この令和5年度からは、体育館床の改修工事や運動場の土壌整備など、規模の大きい改善に向けた工事の計画が進められています。

そしてついに、今年の5月には、創立150周年を迎えることになり、現在、創立150周年記念の行事が計画されています。

【参考】栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」



【創立150周年記念のための航空写真～撮影は令和5年度～】



【参考】本校の児童数の推移 ～昭和55年度からの推移～

- 昭和55年度 児童数337名 学級数12学級
※昭和の時代は、児童数300名を超えている時期がありましたが、平成の時代になると、少子化の影響もあり、児童数が激減していくことになりました。
- 平成2年度 児童数180名 学級数6学級
※少子化とともに、指定校変更制度（認可基準に基づき市教委が認めた場合）の余波もあり、平成9年度には153名、平成16年度には132名、平成20年度には119名、平成23年度には89名と減り続け、平成27年度には73名と過去最少を記録することになります。その後、栗真小学校区内に学童保育が誕生したおかげで、近隣の小学校へと学区変更する児童が少しずつ減ってきていると言われています。
- 令和5年度 児童数94名 学級数8学級（特別支援学級2学級を含む）